

別府市教育長賞

病気になって思ひごと

べつふしりつみなみたていししょうがっこうごねん
別府市立南立石小学校五年 畝崎 千裕

ぼくはいま、入院をしています。

ぼくの病気は、IGAじんしょうという国指定のなん病です。

病名がわかった時、病院の先生から、

「たくさん勉強をして、何か資格をとって、出来ればすわって出来るような仕事をするように。力仕事は絶対にダメだよ。」

と言われました。

先生は四十年以上、ぼくと同じ病気の子ども達を三百人くらいみてきたそうです。

その子ども達が大人になった時に、仕事を続けることがむずかしくなることがあるそうです。

だから先生は、この病気になった子ども達に同じことを言っているそうです。

先生がそう言うようになったきっかけは、高校を卒業して、工場で働き始めた人が

病気のせいで、仕事を辞めさせられたからだそうです。

じんどうの病気は、見た目は健康なので、何の問題もなく会社にしゅう職をして、他の

みんなと変わらず工場の作業の仕事をしていたそうです。でも、夜きんなどの不き則な生活

にだんだんと体がきつくなり、仕事を休みがちになり、そこで初めて会社の人に自分がじん

どうの病気だと伝えたら、すぐに会社を辞めさせられたそうです。

先生は、

「病気の人に職業差別は絶対にあるよ。」

と言いました。

資格などを持ってなくて、だれでも出来る仕事を選んだら、体が悪くなった時にすぐに他

のだれかと変えられてしまうそうです。

その人は、別の仕事を見つけ、働き出したそうですが、と中に入った会社には、年下の

人が上司だったり、周りの友達が自分よりどんどん上だったり、給料が高くなっていっ

たりするのを見て、精神的に病気になったそうです。

だから先生はぼくに、

「勉強をしっかりとがんばって、じんぞうの病気を治すだけじゃなくて、精神的にも病気にならないように生きてほしい。」

と言いました。

ぼくはまだ、しょう来どんな仕事をしたいか考えていませんでした。でも、先生の言ったことが頭からはなれません。

それは、何か月も飲んでいるたくさんの薬、何回もしたいたい注しや、何でもぼくが、何でもこんな病気に、何でも何でと思うことばかりの辛い入院生活。こんなにがんばっているのに、しょう来差別をされるようなことになるのかと思うとはらが立ちます。

病気になりたくてなったわけじゃないのに病気じゃない人に、何でも仕事を辞めさせられないといけないのでしょうか。きついだろうとか、出来ないだろうとか勝手に決めてほしくないです。

入院中にかんごしきん達が、

「自分も十九さいの時に検査をして、同じ病気って言われて、今も治りようしてるんだよ。

今は辛いけど、がんばってよ。」

「私も同じ検査を受けた事があるけど、動けんと辛いよなあ。気持ちわかるよ。」
と、自分の話をしてくれたり、なぐさめてくれたりしました。

自分だけが辛くて、不安だと思っていたけど、周りにも同じ思いをしてきた人がいると知ってびっくりしました。ぼくと同じ病気でも、かんごしきんのような大変な仕事も出来るんだなと少し気持ちが楽になりました。

初めての入院で不安だったけど、同じ病気になったかんごしきん達がいってくれて、はげましてくれたり、気持ちをわかってくれたり、寄りそってくれたりして、すぐうれしかったです。その気持ちをわすれずに、これからすごそうと思います。

そして、ぼくが大人になった時、先生が言っていたことが本当だったなと思わない未来が良いなと願っています。